



大蔵
司

佛蘭西政令上帙卷之三

192



114
A2790
3

佛蘭西政令上帙卷之三



第一篇上

州政治

州政治ト里政治トハ兩篇ニ分テ説ク可ント雖
モ今茲ニ此兩治ノ畧紀ヲ合記ス

畧紀

千七百八十九年以來州政治及ヒ里政治ヲ三期
限ニ分ツ即チ千七百八十九年ノアッサブレール
ンステテラントノ時限及第三年ノ建国法ノ
時限及ヒ第八年ノ建国法ノ時限ナリ

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

アッサンブレー・コンステテューターノ時限

土地ヲ四等ニ分ツ即チ州郡邑里ナリ

州ニ設クル所ノ官署左ノ如シ

州會一個所

人員三十六人在職四年二年毎ニ半員ヲ変換ス皆撰奉人ノ撰フ所ノ者ナリ

會合ノ時限ハ一个月以上ニシテ一年ニ一度會合シ評議事務ヲ司ル

州ノ主裁職

人員八人州會議員中ニ其同僚ニテ撰奉シ亦

在職四年二年毎ニ半員ヲ變換ス執行事務聽訟事務ヲ司ル

總監察一人

撰奉人ノ命スル所ニシテ亦在職四年ナリ任スル所ノ職掌ハ法律ノ施行ヲ請求シ及ヒ裁判事務ニ拘リテ州ヲ代スルノ任アリ

郡ニ設クル所ノ官署左ノ如シ

郡會一個所

人員十二人郡ノ撰奉人ニテ撰フ所ナリ

郡ノ主宰職

人員四人郡會議員中ニ州會ニテ撰フ所ノ者
十リ

監察一人

撰奉人ノ撰フ所十リ

里ノ官署左ノ如シ

里長一人

里會

作業債三日分ニ當ル稅ヲ納ムル國民ヨリ命
スル所十リ

豪族

前同断人員ハ里會議員ノ數ニ倍シテ里ノ總
評議ヲ組立ルモノ十リ此總評議ハ里廳ト共
ニ非常ノ事件ニ付テ評定スルノ任アリ

第三年結果月五日ノ建國法

州ニ設クル所ノ官署左ノ如シ

統括廳一个所

人負五人在職五年ニシテ年々一員ツ、ヲ變
換ス評議及ヒ執行ノ職ヲ兼ヌ

監察一人

是ハ一ヶ年来州中ニ居住スル國民中ニ取リ

行法権ヨリ命スル所ノモノニシテ其職掌ハ
法律ノ施行ヲ請求シ及ヒ監察スルニアリ
郡ヲ廢シテ邑ノ諸廳ヲシテ之ヲ代セシメタリ
住民五千人ニ及バザル諸里ノ為メニ邑毎ニ一
廳ヲ設ケタリ此廳ハ各里ノ地方官吏ト此廳ノ
管下中ニ撰ヒタル首長一人トヲ以テ組立タリ
此廳ハ邑ノ政務ト里ノ政務トヲ兼ヌ
住民五千人ヨリ十萬ニ至ル里ノ為メニハ別ニ
一廳ヲ設ク此人員ハ五人ヨリ七人ニ至ル之ヲ
設クルモ邑ノ廳ニ妨ケアルヲナシ

住民十萬以上ノ里ノ為メニハ三箇ノ廳ヲ建ツ
各廳ノ人負七人ナリ州廳ニテ命スル所ノ三人
ノ員ヲ以テ統括事務局ヲ置キ此三廳ノ事務ヲ

總^括セシム

巴里ハ十二區即チニ分チ内ニ一ノ統括事務局
ヲ置ケリ
住民五千人以下ノ諸里ハ地方官吏一人及ヒ副
員一人ヲ置ケリ

第八年雨月廿八日ノ法

此法ハ州政治及ヒ里政治ノ基礎ノ法ニシテ現

大藏省

今地方ノ制ノ起ホナリ蓋シ執行ハ一人ノ任評
議ハ數人ノ業ト云フ格言ニ從テ立ル所ナリ

州中ニ置ク所ノ官署左ノ如シ

州知事一人

一等コンシルヨリ命シテ執行事務ヲ任ス

州會一ヶ所

評議事務ヲ司ル人員十六人ヨリ二十四人ニ

至ル在職三年ニシテ州ノ豪族ノ名簿中ニ取

リテ第一等コンシルノ命スル所ノモノナリ

州知事評議所一ヶ所

聽訟事務ヲ司ル

郡中ノ官署左ノ如シ

郡知事一人

執行事務ヲ司ル

郡會一ヶ所

評議事務ヲ司ル人負十一人在職三年里ノ豪

族ノ名簿中ニ取リテ一等コンシルノ命スル

所ノモノナリ

里中ノ官署左ノ如シ

里長一人及ヒ副員

執行事務ヲ司ル

里會一个所

評議事務ヲ司ル第一等コンセル或ハ州知事ノ命スル所ノモノナリ

千八百三十年ノ革命以來ハ官ヲ授クルハ撰擧ヲ以テシテ行法權ヨリ命スルモノニ非ズ里ノ制ニ付キテ出シタル千八百三十一年ノ法律及ヒ州ノ制ニ付キテ出シタル千八百三十三年ノ法律ニ從ヘハ里會州會及ヒ郡會ノ實ハ都テ撰擧ヲ以テス

撰擧ノ原則ヲ千八百四十八年ニ至リ愈擴充シ一般ノ投票ヲ以テスルニ至レリ然ルニ千八百五十二年ニ於テ州會及ヒ郡會ノ議長副議長及ヒ書記ヲ命スルノ權ヲ行法權ニ取リテ撰擧ヲ以テスルノ原則ヲ縮メタリ

是ヨリ以後州及ヒ郡ノ官署ヲ説ク可シ

州

州ハ郡ノ如キ政治ニ拘ハル經界ノ分ナクモ非ス一箇ノ人ト同シク諸物品ノ所有主貸主及借主トナリ得可ク且ツ物品ヲ已レニ受ケ或ハ

他ニ譲リ共へ又訴訟ヲナシ得可シ

所有ノ権ノ州ニ歸スルノ基礎ハ千八百十一年

四月九日ノ制詰ナリ此制詰ヲ以テ州用ニ供ヘ

タル諸建設ノ從來國ニ屬シタル所ノモノヲ所

有スルノ権ヲ州ニ歸シタリを管繕及ヒ修補モ

亦州ノ任ナリ

此制詰アリト雖モ州ノ一箇ノ人タルトハ未タ

判然タラザリシカ千八百三十八年五月十日ノ

法律以來始メテ判然タリ

州ノ所有モ亦國及ヒ里ノ所有ト同ク分ナテ二

種ト為ス一ハ即チ公有物一ハ即チ私有物

州ノ公有物ハ他ニ譲リ典ヲ可ラズ且ツ弃指ス

ルノ定限ヲ過ル共弃指ス可ラズ

公有物ヲ左ニ掲ク

第一州費ヲ以テ建築シタル州街道

第二州ノ鉄道

私有物ヲ左ニ掲ク

第一裁判所州廳郡廳屯兵所及ヒ囚獄ノ如キ州

中ニ屬スル公用ノ建設

第二温泉苗圃植學園ノ如キ用ノ歸スル所定リ

ナク其地ヨリ出産スル利益ノ州ニ歸スル所ノ
不動産

第三貸金利息及ヒ州廳郡廳刑事裁判所民事裁
判所貿易裁判所等ノ家具タル動産

是ヨリ以下州知事ヲ任授スル事及ヒ其職掌ニ
拘ハル規則ト州會及ヒ州知事評議所及ヒ其職
掌等ヲ順次シテ説クベシ

州知事

州知事ハ州ノ執行事務ノ主宰ナリ而シテ内務長
官ニ專ラ屬スルモノナレバ常ニ諸省長官ト相

應酬ス知事ヲ授任スルト廢棄スルノ權ハ帝ニ
屬ス州知事タルニハ國民タルノ年限ヲ以テ足
レリトシ別ニ年齢身分等ノ定規ナシ

州知事ハ俸祿ノ差違ヲ以テ之ヲ三級ニ分ツ一
級ニ居ルモノハ四萬フランクニ級ハ三萬フラ
ンク三級ハ二萬フランクノ俸ヲ受ク三級及ヒ
二級ノ知事ハ奉職五年ニ滿ルモノハ其現在ノ
地ヲ換フルトナク五千フランクノ加増ヲ受ケ
得可シ故ニ在職五年ノ後ハ必ス加増アルト知
ル可シ

州知事ハ國主或ハ國主ノ代人ニ對シ誓ヲ為ス
可シ

州知事若シ死スルカ辭職或ハ免職スルカ或ハ
他行中及ヒ他ノ事故ヲ以テ其職ヲ虚シクスル
時ハ州知事評議所ノ最モ舊キ老功ノ議員ヲシ
テ代セシム若シ直ニ知事ノ代人ヲ立テタル時
ハ此例ニアラズ

職

州知事ノ專任ハ本来執行事務ナリト雖モ聽訟
事務ニ於テモ亦少シク關係セザルハ六十五年

以來ハ聽訟事務モ亦專ラ関セリ

第八年雨月廿八日ノ法則ノ第三條ニハ執行事
務ハ州知事ノミノ任ナリト云ヘリ

執行事務ノ職

州知事ハ國廳ノ代人タルノ體ト州ノ代人タル
ノ體トノ兩體ヲ具ヘタリ

州知事ノ任スル所ノ執行事務ノ職掌ハ千八百
五十二年三月廿五日ノ制詔及ヒ千八百六十
一年四月十三日ノ制詔ヲ以テ猶加増シタリ

國廳ノ代人ノ體ヲ以テスルモノハ國ノ裁判事

務ト民事トナリ即チ法律制誥及ヒ一般ノ安寧
ノ方畧施行ヲ擴充シ州ノ取締ヲ示令ス
州ノ代人ノ體ヲ以テハ知事ハ州ノ利益ノ使役
ナリ故ニ州ノ名ヲ以テ自ラ訟庭ニ出ツ可シ而
シ又州里及ヒ公用ノ諸建築ノ後見人ナリ
此兩體ノ内國廳ノ代ヲ最重シトス故ニ國ト州
トノ間ニ爭論起ル時ハ州知事ハ國ヲ代シ評議
所ノ古老員ヲシテ州ヲ代セシム
州知事ハ一般ニ拘ハル條規及特別ノ條規ヲ載
スル所ノ命令書ヲ作り得可シ

一般ニ拘ハル命令書ヲ作ルノ權アレハ則チ法
律及ヒ規則ヲ以テ制定シタル分限中ニ居リテ
州ニ拘ハル規則ヲ作ルノ權アルヲ知ルベシ
既ニ其權ヲ州知事ニ許シタル法律ノ文言アレ
ハ更ニ亦論ス可キナシ實ニ鄙郷道路ニ付キテ
出セル千八百三十六年五月廿一日ノ法律ノ第
二十一个條ニ其例アリ
法律文言ニ載セズト雖モ規則ヲ作ルノ權ヲ州
知事ニ歸スベキヤ就中里ノ取締ノ事ニ付キテ
其權アルヤ否

甲ハ曰其権ナシ蓋若シ州知事ノ命令書一個ノ
里ニ関スルノミナレバ則チ里長ノ権ヲ州知事
ノ奪ヘルト云フ可シ

乙ハ曰其権アリ蓋若シ命令書一州中ノ諸里ニ
関スレハ則チ全州ノ利益ニ関スルナリ

州知事ノ命令書ニ違背スルノ罰ハ刑法ノ四百
七十一條第十五款ニ記載シタリ即チ一フラン
クヨリ五フラン迄ノ罰金ヲ命スルナリ

政令事務ニ拘ハリテ州知事ハ或ハ一箇ニテ決
断シ或ヒハ評議所ノ意見ヲ問フテ決断ス意見

ヲ問フハ必須ノモノニ非ス然レモ唯法律及ヒ
規則ヲ以テ意見ヲ問フヲ要シタル事件ニ付キ
テ敢テ意見ヲ問フ事ナク一箇ニテ決定シタル
時ハ権ヲ越ユルノ咎メアリ

政令事務ニ付キテ州知事ノ決定シタル命令書
ヲ破壊スルノ道ハ左ノ如シ

第一廢棄ヲ請求スル事

是ハ州知事ノ決定書ヲ廢棄シ或ハ改ムルヲ
州知事ニ請求スルナリ

第二州知事ノ上司タル長官ニ上告スル事

第三権ヲ越ユルカ或ハ不適當ナルノ理ヲ以テ
國議院ニ上告スル事

聽訟事務職

千八百六十五年六月廿一日ノ法律以前ハ聽訟
事務モ亦政令事務ノ如ク州知事ノ一箇ニテ決
断スルヲアリ又評議所ノ意見ヲ問フテ決断ス
ルヲアリタリ

此法律以來ハ從前評議所ノ意見ヲ問フテ知事
ノ決定ニ來ル所ノ三件ヲ州知事評議所ニ歸シ
評議所ノ特権ヲ以テ之ヲ裁決セシム

此三件ハ後ノ州知事評議所ノ聽訟事務職ヲ説
クノ條ニ至リテ明瞭ナルヘシ
州知事ノ一箇ニテ決定不可キ件々ハ大畧左ノ
如シ

第一級ニ列スル危險ヲ包蔵シ便利ヲ妨ケ健康
ヲ害スルノ建設ヲ許ス事建設ニ三級ノ別
アリ下帙ニ詳シ

是ハ願ヒテ許サ、ル時ハ願人ヨリ國議院
上告スルヲアリ又旁告人ヨリ故障ヲ國議院
ニ陳訴スルヲアリ

國領品ヲ買受ケタム買主ヨリ代價ヲ納メサル

時破約ヲ言渡ス事

是ハ理財長官ノ許可ヲ要ス

鉄ヲ取ル為メニ開業人ノ開キ得可キ土地ノ廣
狹ヲ定ムル事

是ハ國議院ニ上告スル事アリ

礦山ニ付キテノ義務ハ千八百六十六年ノ常
會ニ於テ廢棄ノ議決セリト雖在來ノ製造所
ヲ損害スルヲ避シカ為メ千八百七十六年
一月一日ニ至リ之ヲ廢棄ス可シ

礦山ノ坑ヲ鑿ツニ法律及ヒ規則ニ違フタル時

ハ事業ノ廢止ヲ命スル事

國ノ邊境ニ設ケアル製造車ノ穀物麥粉等ノ密
賣ノ手立トナル可キ事ヲ認ル時ハ之ヲ禁止ス
ル事

是ハ聽訟事務ノ道ヲ以テ國議院ニ上告スル
事アリト雖モ然レモ仮リニ此禁止ノ決定ヲ
施行ス可シ

官許ヲ受クルヲナクシテ企テタル海塩製造ヲ
禁スル事

聽訟事務ニ付キ州知事ノ決定シタル命令書ヲ

破壊スルノ道左ノ如シ

第一抗傳シテ悖フ事

第二旁告人ヨリ悖フ事

第三事務ノ帰スル長官ニ上告スル事

第四国議院ニ直ニ上告スル事

是ハ危険ヲ包蔵シ便利ヲ妨ケ健康ヲ害スル

建設及ヒ礦山ノ事ニ付キテノ法律ニ載スル

如ク国議院ニ上告スルコトアリト法律ニ記シ

タルモノト不適當或ハ権ヲ越ヘタルノ道理

アル時ニ限ル可シ

州會

州會ノ組立ハ千八百三十三年六月廿二日ノ法律千八百四十八年七月三日ノ制誥及千八百五十二年七月七日ノ法律ヲ以テ規定セリ其職掌ハ重ニ千八百三十八年五月十日ノ法律及千八百六十六年七月十八日ノ法律ヲ以テ規定シ千八百五十二年三月廿五日及千八百六十二年四月十一日ノ制誥ヲ之ニ参考ス可シ

組立

州會ノ組立及議員ヲ命スル事

千八百三十三年ノ法律ニ從ヘハ州會ノ議員ハ
州中ニ含蓄スル邑ノ員數ニ應シテ一名ヲ撰挙
ス尤三十名ヲ上ル可ラズ
一州ニ三十邑以上ヲ含蓄スル時ハ數邑ヲ合セ
テ一名ヲ挙ケ以テ三十ノ數ニ充ツ
千八百四十八年七月三日ノ制誥以來ハ州中ノ
邑ノ員數ニ應シテ議員ヲ撰ヒ各邑一名ノ員ヲ
撰挙セリ

州會議員ノ撰挙人ハ千八百三十三年ニ於テハ
國會議員ノ撰挙人ト同様ナリ却テ定式ノ稅額
ヲ納メ刑事登記ノ名簿中ニ記載シタル國民
ナリ
千八百四十八年全国ノ投票ヲ起シテヨリ以來
年齡二十一歳ニシテ民権及ヒ政權ヲ受ケ及ヒ
六ヶ月間里中ニ居住スル佛蘭西人ハ悉皆撰挙
人ナリ同年更ニ制誥ヲ出シテ一个年ノ居住ヲ
要セリト雖モ千八百五十二年七月七日ノ法ヲ
以テハ又六個月ノ居住ヲ要セリ然ラバ國會議
員ノ撰挙ト更ニ異ナルナシ
州會議員ヲ撰挙スルノ規則ハ國會議員ヲ撰挙

スルノ規則ト大畧同シ其小異ノ件ヲ左ニ掲ク
國會議員ノ撰挙ハ投票ヲ審訂スルハ州ノ首廳
ニ於テシ州會議員ノ撰挙ハ投票ヲ審訂スル
邑ノ首廳ニ於テス
國會議員ノ撰挙ノ曲直ヲ定ムルハ制法官ニ於
テシ州會議員ノ撰挙ノ曲直ヲ定ムルハ州知事
評議所ニ適スルトアリ又民事裁判所ニ適スル
事アリ

州會議員トナル為メニ必要ナル件々

州會議員ノ撰ニ充ル者ハ年齢廿五歳ニシテ民
權及ヒ政權ヲ受ケ其地ニ居住スルカ或ハ州中
ニ直税ヲ拂フタル者ヲ要スト雖モ然レモ土地
ニ住セズシテ唯直税ヲ拂フタルノミノ者ノ員
數ハ州會議員總員數ノ四分ノ一ヲ越ユ可ラズ
千八百三十三年ノ頃ハ居住ノ件ヲ廢棄シ直税
ハ少クモ二百フランクヲ拂ヘル者ヲ要セリ
上ニ記スル件々ノ外充撰人ハ猶千八百十三
年ノ法律ヲ以テ示シタル兼勤ス可ラサルノ職
ニ居ラサル者ヲ要ス
兼勤ス可ラサルノ道理ニ二種アリ一般ニ全ク

兼又可ラサルモノアリ他ノ拘ハリヲ以テ兼又
可ラサルモノアリ全ク兼又可ラサルモノハ諸
州會ニ都テ加ハルヲ得ス他ノ拘ハリヲ以テ兼
又可ラサルモノハ定リタル一箇ノ州會ニ加ハ
ルヲ得ス

全ク兼又可ラサルモノハ州知事郡知事總書記
及ヒ州知事評議役稅ノ請取方及ヒ公費ノ仕拂
ノ為メニ任シタル諸職負

他ノ拘ハリヲ以テ兼又可ラサルモノハ道路橋
梁ノ造營師家屋建設ノ築造師森林保護ノ吏負

州知事及郡知事ノ事務局ノ屬吏此等ハ現ニ職
ヲ奉スル所ノ地方ノ議負タルヲ得サルノミ
千八百三十三年ノ法律ニ從ヒ兩州ノ州會議負
タルヲ得ズ又州會議負ト郡會議負トヲ兼又可
ラズ

職ノ期限

州會議負ハ在職九年ニシテ三年毎ニ三分一ヲ
變換ス滿任ノ議負直ニ再任ヲ受ルモ妨ケナシ
最初ノ撰奉ニ引續キタル州會ノ會合ニ於テ州
ノ諸邑ヲ三區ニ分テ州知事ノ評議所ニ於テ知

事公明ニ拈闔シ三區ノ变换ノ順序ヲ規定ス
三年变换ノ間ノ時限ニ不時ニ闕員アル時ハ撰
挙組ハ闕員ノ治定シタル日ヨリ二个月間ニ會
合シテ闕ケタル議員ノ代ヲ撰ブ
州會議員ノ不時闕缺スルノ道理ハ死亡失権揀
擇及ヒ退職ナリ
揀擇ハ充撰人左ノ時ニ當リテ自ラ其地ヲ揀擇
スルナリ
第一一人ノ州會議員ヲ同州ノ數邑ニ於テ撰挙
スル時

第二一人ヲ州會議員ト同州ノ郡會議員トニ一
時ニ撰挙シタル時
第三諸州ニ於テ一時ニ撰挙シタル時
充撰人ハ撰挙ノ時ヨリ一个月中ニ州知事ニ已
レノ揀擇ヲ報告ス可シ若報告セサレハ州知事
評議所ニ於テ知事公明ニ拈闔シテ充撰人ノ代
ス可キ邑ヲ定ム
退職ニ公黙ノ二種アリ公退ハ州知事ニ辞書ヲ
出ス或ハ州會ノ會中ナレハ辞書ヲ議長ニ出
シ議長之ヲ受ケテ州知事ニ達ス

大藏卷
默退ニ亦二種アリ一ハ建国法ヲ遵奉スル事及
ヒ帝王ニ忠實ナル事ノ誓約ヲ闕キ或ハ拒ム事
一ハ正シキ趣意アルニ非ス亦州會ニ於テ許セ
ル事故モ十ク引続キタル兩會ニ闕席スル事

撰挙事件ノ訴訟

千八百三十三年ノ法律ノ五十條五十四條ニハ
撰挙ノ際ニ起ル争論ニ關係スル規則ヲ記載セ
リ此个條ハ州會ノ撰挙ニ適スルノミナラス郡
會ノ撰挙ニモ亦適ス里治ニ付キテ出セル千八
百五十五年ノ法律ニモ其个條ヲ再記シタリ然

ラハ今茲ニ著サント欲スル所々州撰挙及ヒ里
撰挙ノ双方ニ關係スルモノナリ

撰挙事務ノ争論ハ政令ニ適スル事アリ司法ニ
適スル事アリ故ニ訴訟原因ノ情實ヲ辨別セザ
ル可ラス

撰挙ヲ廢棄スルニ其處置ノ不規則ナル事ヲ以
テスル時ハ其曲直ヲ決スルハ州知事評議所ニ
於テス

州知事評議所ニ訟ルハ知事ヨリ訟ル事アリ
撰挙人ヨリ訟ル事アリ

州知事ハ充撰ノ証書ヲ受取タル日ヨリ十五日
ノ時限中ニ撰挙ヲ廢棄スルノ裁判ヲ評議所ニ
告ク
撰舉人ハ撰挙ノ日ヨリ五日ノ期限内ニ廢棄ノ
請求ヲ郡廳ノ書記局ニ投シ置ク可シ此五日ノ
期限ハ滿刻ノ期限ニアラズ
訴状ハ通常ノ紙ヲ用ヒ稅ヲ拂フコトナク印紙ノ
式ヲ用ヒス恰モ國會議員撰挙ノ訴状ノ如シ
州知事評議所ニ於テハ州廳ニ訴状ヲ受取タル
日ヨリ一个月間ニ裁決ス可シ

州知事評議所ノ決定書ハ國議院ニ上告スル事
アリ此上告ハ代人ヲ立ルコトナク裁斷ハ無賃
ナリ州知事評議所ニ於テ廢棄サレタル充撰人
ヨリ上告スル時ハ決定ノ施行ヲ抑滯ス
國議院ニ上告スルニハ州知事評議所ノ決定ヲ
報告シタル日ヨリ三個月間或ハ州知事評議所
ニ於テ裁決ノ為メニ許シタル一个月ノ期限内
ニ裁決セサレハ其期限ノ盡キタル日ヨリ三個
月間ニ聽訟事務課書記局ニ訴状ヲ記録セシ
ム可シ若シ記録セサレハ國議院ニ於テ受理ス

ル事ナシ

撰奉ヲ廢棄スルニ充撰人ノ本分ニ居ラサルノ
旨意ヲ以テスル時ハ民事裁判所ニ適ス然リト
雖モ此訴状ハ亦州知事評議所ニモ直ニニ關係
ス如何トナレハ民事裁判所ハ唯其人ノ本籍年
齡住居等ノ如キ楷梯ノ事件ヲ定ムルノミナレ
バナリ

此ノ如ク千八百五十五年ノ法律ヲ以テ里會ノ
撰奉ヲ規定セリ依テ州ノ撰奉モ亦同様ナリ
民事裁判所ノ決定ヲ上等裁判所ニ上告スルニ

著目スベキ事件二様アリ一ハ上告ハ十日内ニ
為ス可ク裁判ハ簡易ニス可キ事一ハ州知事ヨ
リノ上告ナル時ハ上告ヲ以テ抑滞セサル事

州會ノ會合

州會ハ毎年一度ノ常會アリ格段ノ事件ニ付キ
テ評定スル為メニ更ニ又非常會ヲ設ケ得ヘシ
常會非常會共ニ帝ノ制誥ヲ以テ之ヲ許シ以テ
會時及ヒ時限ヲ定ム集會ヲ起スノ命ハ州知事
之ヲ令ス充撰ノ新議員ノ誓ヲ受タルノ後州知
事ハ會合ヲ開ク誓ヲ為ス事ハ千八百四十八年

大藏省
ニ於テ廢棄シタレ且千八百五十二年ニ又之ヲ再興セリ

千八百三十三年ノ法ニ依レハ州會ノ議長及ヒ書記官ハ州會ニ於テ命セリ千八百四十八年モ依然トメ此規則ヲ變スル事ナシ

千八百五十二年ノ法ニ從ヘハ州會ノ議長副議長及ヒ書記ハ議員中ニ於テ帝之ヲ撰ヘリ

州會ノ會合ハ傍聞ヲ許サス是ハ千八百三十三年ノ法ノ第十三條ニ載タリ千八百四十八年ニ於テハ郡會及ヒ里會ハ傍聞ヲ許サス州會ハ之

ヲ許シタリ千八百五十二年ノ法ハ又千八百三十三年ノ規則ニ習ヒ傍聞ヲ禁シタリ

州知事ハ州會ニ加ハリ評定ニ參與シ得申シ尤已レニ關スル會計ヲ制定スル時ハ此例ニ非ス里會ノ評定ハ通達ヲ求ム申シト雖モ州會ノ評定ハ何人タリモ通達ヲ求ムル能ハズ

州會ノ評定ハ會合ノ不正ナルカ或ハ事務ノ不適當ナル時ハ之ヲ廢棄スル事アリ

不正ノ會合ニテ廢棄スル時ハ州知事評議所ニ於テ知事之ヲ言渡ス不適當ニテ廢棄スル時ハ

帝ノ制誥ヲ以テシ且ツ事務ニ關係アル双方ニ
國議院ニ上告スルヲ許ス

州會ノ停止及ヒ解散

州會ノ停止ハ州會ヨリ直ニ住民ニ布告シタル
時或ハ他ノ州會或ハ郡會ト往復シタル時州知
事之ヲ停止スルヲ命ス七帝ノ許可ヲ要ス
州會ノ解散ハ制誥ヲ以テ命ス而シテ之カ為メニ
一定シタル條規ナシ是ハ千八百四十八年ノ法
ト差違スル所アリ其法ヲ以テハ國議院ノ意見
ヲ問フ要セリ

解散ノ時ハ撰舉人ハ三個月ノ期限内ニ集會シ
テ新議員ヲ撰舉ス若シ死亡失權退職ノ為メニ
闕員アル時ハ撰舉ノ期限ハ二個月ナリ

職

州會ノ職ハ專ラ千八百三十八年五月十日ノ法
及ヒ千八百六十六年七月十八日ノ法ヲ以テ規
定セリ此兩法ニ猶千八百五十二年三月廿五日
及ヒ千八百六十一年四月十三日ノ制誥ヲ参考
ス可シ

州會ノ職ヲ行フニ権力ノ輕重ト其職ノ原由ト

ヲ兩様ニ分テ見ル可シ

権力ノ輕重ニ拘リテ見ル時ハ其職ヲ三ツニ分ツ即チ獨斷ヲ以テ行フ可キ評定上官ノ許可ヲ要スル評定及ヒ意見ヲ陳スルノミノ事

州會ノ職ヲ此ノ如ク分テタルハ千八百三十八年ノ法ヲ以テスル所ニシテ千八百三十七年七月十八日ノ法ヲ以テ里會ノ職ヲ分テタルト全ク同様ナリ

職ノ原由ニ拘リテ見ル時ハ之ヲ四ツニ分ツ即チ制法権ノ代人州ノ代人州治及ヒ里治ノ検査

職及ヒ国廳或ハ地方廳ノ検査職ナリ

此分チ千八百三十八年ノ法ヲ國會ニ執奏シタル「ウウエ」氏ノ分テルモノニシテ今日ノ分チノ基源ナリ

制法権ノ代人ノ体裁

州會ハ配賦直税ヲ諸郡ニ配賦スルヲ任セリ

國會ノ此職ヲ精細ニ了解スルニハ直税ヲ配賦

ト拾聚ノニツニ分ツ事ヲ知ラサル可ラス配賦

税ハ即チ地税人身及動産税及牖戸税ナリ制法

官ニ於テ此三税ヲ諸州ニ配賦シ各州々會ニ於

テ其州ニ當リタル出額ヲ諸郡ニ配賦シ各郡々
會又之レヲ受ケテ諸里ニ配賦シ各里ノ配當委
負之レヲ里中ノ住民ニ配賦ス
諸郡ニ配賦シタル稅額ヲ確定スル以前ニ郡ノ
出額ノ減省願ヲ州會ニ於テ決定スベシ里ノ出
額ノ減省願ハ先ツ郡會ニ出シテ然ル後州會ニ
於テ決定ス
若州會ニ於テ直稅ヲ配賦スルヲ怠ル時ハ州知
事自ラ前年ノ例ヲ照シテ之ヲ配賦ス尤少ク變
換スルヲモ亦アル可シ

是等ノ職ニ於テハ州會ハ獨斷ヲ以テシ州會ニ
權ヲ與ヘタル立法者ト同等ニシテ上官ノ許可
ヲ受ル事ナシ

州代人ノ体裁

州會ハ州ノ領地ニ關スルトモ亦一般ノ公益ニ
關スルトモ州ノ利益ニ付キテ評定ス
千八百三十八年ノ法律ニ從ヘハ州ノ利益ニ關
スル州會ノ職ハ州知事長官国主或ハ制法官ノ
如キ上司ノ許可ヲ得サレハ行フ可ラサリキ
千八百五十二年三月廿五日ノ制誥以來ハ法律

大 痛 省
文言ニ齟齬スルコトアルニ非サレハ都テ州知事
ノ許可ヲ以テ足レリトセリ從前ハ法律文言ニ
唯州知事ノ許可ヲ以テ足レリトスル事ノミヲ
示シタリ
千八百六十六年七月十一日ノ法律ヲ以テ州知
事ノ許可ヲ要シタル件々ヲ獨断ヲ以テ決定ス
ルノ權ヲ州會ニ與ヘタリ
是ヨリ以下州會ニ於テ獨断ヲ以テ裁決スル件
々及ヒ行法官或ハ制法官ノ許可ヲ得ルニ非レ
ハ裁決ス可ラサルノ件々ヲ揭示ス可シ

獨断ヲ以テ行フ可キ裁決

千八百六十六年ノ法律ノ一个條ニ從ヒ州會ハ
其議真中ノ一人カ或ハ州知事ノ企テタル下ニ
記載スル所ノ事件ニ付キテハ獨断ヲ以テ裁決
ス
第一下ノ第四ニ掲クル所ノ用ニ當ラサル州ノ
所有物ノ受授交易
第二州ノ所有物ノ處置方
第三請負委託貸借ノ證書是ハ年期ニ付キ制限
ヲ立テズ

大 裁 省

第四州ノ所有物及建設ノ用ヲ変ズル事尤州廳
郡廳及ヒ裁判所屯兵所囚獄ニ當ル場所ハ之ヲ
除ク

第五親族ヨリ後日ノ求ナク州ニ寄附スル贈遺
品ヲ受ケ或ハ拒ム事

第六路線ノ他州ニ達セサル州街道ノ改正道路

級ヲ変スル事アリ下及州街道其他州費ヲ以テ
帙道路ノ部ニ詳ナリ
行フ可キ工業ノ改作或ハ永保ノ為メニ要スル
諸作業ノ企テ圖取リ及積リ書

公用ノ為メニ所有地ヲ買上ル時ハ法律或ハ

制誥ヲ以テスルナリ

第七大鄙郷路ノ改正州街道ノ改中鄙郷路ノ新

開ノ指示シ及ヒ其路ノ營繕及ヒ永保ノ為メニ
入費ヲ寄附ス可キ里ノ指示シ

是等ハ皆郡會里會ノ意見ヲ問フ可シ

大中鄙郷路ノ為メニ備ヘタル助成金ノ配當方

第八州街道或ハ州ノ任タル其他ノ工業ニ給ス
ル為メニ里或ハ會社或ハ平民ヨリノ贈遺

第九州街道及ヒ大中鄙郷路ノ貶級尤路線ノ他
州ニ及ハサル者ニ限ル可シ

第十大中鄙郷路ノ作業ヲ托ス可キ工匠ノ指示
及ヒ州街道ノ作業ノ外州ノ任タル工業ノ仕様
書

第十一仕拂期限内ニ請取リタルカ或ハ請取ル
可キ非常加税或ハ借り金ヲ以テ備ヘタル備金
ノ用方

第十二州ノ建設ノ請負

第十三州ノ名ヲ以テ訴訟ヲ起シ或ハ訟ヲ受ク
可キ事件

是ハ至急ナル片ハ千八百三十八年五月十日

ノ法律ニ從ヒ州會ニ議スルコトナク州知事直
ニ取計ヒ得可シ

第十四州ノ権ニ關係スル商議

第十五州ニ属スル療疾院ノ出入費及ヒ州ノ療
疾者取扱ノ為メニ公私ノ建築ト取替ハシタル
約定ノ許可

第十六弁児ノ處置方

是等ノ事務ニ付テハ州會ハ千八百六十六年ノ
新法以來獨断ヲ以テシテ上官ノ許可ヲ要セス
然レモ集會ヲ閉シタル日ヨリ二个月中ニ州會

ノ決定ヲ国議院ニ於テ作ル所ノ制誥ヲ以テ推
ヲ越タルカ法律ヲ破ルカ或ハ代法制誥ニ背ク
カノ理ヲ以テ廢棄セサル時ニアラサレハ行フ
可ラス

若シ州會ニ於テ第六第七第十五及ヒ第十六ニ
掲タル事件ニ付キテ決定シタル時ハ同期限中
ニ帝ハ制誥ヲ出シテ其施行ヲ止メ得可シ此特
ハ権ヲ越タルカ法ヲ犯シタルカ或ハ代法制誥
ニ背キタルカノ理アルニ關セサルナリ

千八百六十六年ノ法以來年々理財法ヲ以テ定

メアル最上額内ニ於テ州用ノ加税及ヒ非常ノ
工業ノ為メニ非常加税ヲ投票シ得可ク又期限
十二年ヲ越エスレテ返辨ス可キ州ノ借金ヲ投
票シ得ルヲ州ノ歳入出ヲ説クニ至リテ見ル
可シ

上ニ掲クル事件ニ付キテ裁判ノ模様ヲ茲ニ説
ク可シ

州知事ハ原告人或ハ被告人トナリテ州ノ代人
タリ然レモ国ト州トノ争論ナレハ知事ハ国ノ
代人トナリ州知事評議所ノ古老貞州ノ代人ト

ナル至急ナル片ハ州知事ハ州會ニ前以テ議セ
スレテ直ニ處置ス又州知事ハ永保ノ諸文書ヲ
作ルノ任アリ

州ニ對シテ所有ノ権ニ拘ハラサル訴訟ヲ為ス
者ニ法律ヲ以テ一ノ義務ヲ命ス即チ出訴スル
以前ニ訴訟ノ道理ヲ記載スル所ノ文書ヲ州知
事ニ出ス可シ若シ之ヲ出サザレハ受理スルヲ十
シ

此文書ヲ受取タル時ハ受取書ヲ渡ス可シ裁判
所ニ訴出ルハ受取書ノ日付ヨリ二个月ノ後ニ

為ス可シ

上司ノ許可ヲ要スル決定

上司ノ許可ヲ得サレハ行フ可ラサル州會ノ評
定ノ事件ヲ左ニ掲ク

州及里ニ一時ニ關係スル工業ノ費ニ充ル州ノ
出金

是ハ州里ノ間ニ不諧ノ事情アラサレハ内務
長官特権ヲ以テ決定ス若シ不諧ナル時ハ制
誥ヲ以テス

国ニテ起シテ州ニ關係スル所ノ工業ニ充ル州

ノ出金

路線ノ他州ニ及ベル州街道ノ改正州廳及郡廳ノ官吏ノ退職或ハ其他ノ褒賞ノ為メ積金ノ設方

此兩項ハ帝ノ制誥ヲ以テ許可ス

州廳郡廳及ヒ裁判所屯兵所囚獄ニ當テタル州ニ属スル建設ノ用ヲ変スル事

親族ヨリ後日ノ求メアル贈遺物ヲ受ケ或ハ拒ム事

公用ノ為メニ所有地ヲ買上ルニ至ル可キ州費

ヲ以テ起ス所ノ工業ノ企圖取及積リ書ノ許可

此三項ハ国議院ニ於テ作ル所ノ帝ノ制誥ヲ以テ許可ス

理財法ヲ以テ定メタル最上額ヲ越ユ可キ非常加税ノ投票

十二年以上ノ期限ヲ以テ返辦ス可キ州用ノ為メノ借金

此兩項ハ法ヲ以テ許可スベシ就中セーン州ハ尤モ法ヲ以テセザル可カラス

上ニ記スル所ノ事件ヨリ輕キヲハ州知事ノ許

可ヲ受クベシ就中州ノ囚獄ニ加フベキ諸作業
圖取及ヒ積リ書ハ州知事ノ許可ヲ以テ足レ
リトス若シ囚獄内部ノ舊容ニ障碍アル時ハ内
務長官ノ許可ヲ要ス
前ニ掲クル所ノ諸規則ハ千八百三十八年ノ法
律千八百六十六年ノ法律及ヒ地方ニ権ヲ加増
シタル制誥ヨリ成リ来ルモノナリ

地方政治ノ検査職ノ体裁

州會ハ州知事ヨリ出シタル州ノ歳入出簿ヲ討
論シ州知事ノ諸會計ヲ評定シ記録簿及ヒ州ニ

属スル動産ノ簿書ヲ正訂ス

州ノ歳入出

州ノ歳入出ハ千八百三十八年ノ法ニ依レハ四
篇ニ分ツ每篇ニ出入ノ對目勘定ヲ記ス此四篇
ハ四種ノ加税ニ應ス即チ通常ノ加税不必須ノ
加税非常ノ加税及ヒ特別ノ加税

最初ノ一篇ハ千八百三十八年ノ法律ノ十二个
條ニ記シタル通常ノ費用ヲ含蓄ス此費用ニ給
スルニハ三箇ノ通常ノ入金ヲ以ス

第一通常加税

或ハ之ヲ制法加税ト名ツク如何トナレハ地
税及ヒ人身動産税ノ原税ニ加フルモノニシ
テ理財法ヲ以テ投票スレハナリ
第二州ノ備金ノ内ヨリ州用ニ供シタル出額
第三未定ノ出産

道路ノ樹木囚獄ノ出産ノ如キ公用ニ備ハリ
タル州有物ヨリ生スル所ノ物及ヒ書寫手數
料及ヒ通行税等ヲ云フ

通常ノ費ハ之ニ給スル入金ヲ必須ス可シ若シ
州會ニ於テ投票セサル時ハ州知事評議所ニ於

テ州知事自ラ命シテ出納簿ニ記載セシム

第二篇ハ不必須ノ費用ヲ含蓄ス

是ハ投票不投票ハ州會ノ意ニアリ其費ニ給
スルニハ第一不必須ノ加税其税モ亦同シク
地税及ヒ人身動産税ニ因テ取立テ理財法ヲ
以テ定メタル最上額中ニ於テ州會ニテ投票
ス第二苗圃ノ樹木ノ如キ公用ニ備ハラサル
州有物ノ出産ヲ以テス

第三篇ハ非常ノ費用ヲ含蓄ス

此費ニ給スルニハ非常ノ加税ヲ以テス其税

ハ先ツ州會ニ於テ投票シ而シテ原稅ヨリ取
立ツ可キ割合及加稅ノ歸スル所ノ原稅ヲ定
ムル所ノ別段ノ法ヲ以テ許可スルヲ要ス
第四篇ハ格段ノ費用ヲ含蓄ス

此費ハ檢地鄙郷道路小學ノ為メニ立ル所十
リ仍テ此篇ヲ又三章ニ分ツ

此三章ノ費ニ當ルニハ章毎ニ各格段ノ加稅
ヲ以テス檢地ニ付テ出セル千八百二十九年
八月二日ノ法律鄙郷道路ニ付テ出セル千八
百三十六年五月廿一日ノ法律小學ニ付テ出

セル千八百五十年三月十五日ノ法則ヲ以テ
格段ノ加稅ヲ取立ルヲ許セリ

加稅ノ最上額ハ檢地ノ為メニハ五分ノ割ヲ
以テ地稅ヨリ取立テ鄙郷道路ノ為メニハ五
分ノ割ヲ以テ四ツノ直稅ヨリ取立ツ千八百
六十七年七月三十一日ノ理財法以來七分ニ
至レリ小學ノ為メニハ二分ノ割ヲ以テ四ツ
ノ直稅ヨリ取立ツ千八百六十七年四月十日
ノ法律以來三分ニ至レリ

如是篇ヲ分テ歲入出ヲ區別セリ故ニ元來歲

入ノ各種ハ各篇ノ費ニ当ルハ当然ナリト雖モ
不必須ノ費ニ当ル金額ハ通常ノ費ニ当ツ可ク
シテ通常ノ費ニ当タル金額ハ不必須ノ費ニ当
ツ可ラズ
千八百六十六年七月十八日ノ新法ヲ以テ州ノ
歳入出ニ関スル規則ヲ著ルク変シタリ此法ニ
依レハ州ノ歳入出ハ通常ト非常トニツニ分ツ
通常ノ歳入出ハ前ニ説キタル通常不必須及ヒ
格段ノ費用ト分テ名ツケタルモノニ悉ク含
蓄セリ

非常ノ歳入ハ第三篇ニ載セタル非常ノ費用ヲ
含蓄セリ

通常歳入出ノ入額ハ三種ノ収納ヲ以テス

第一加税

是ハ地税及ヒ人身動産税ヨリ取立テ年々州
會ニ於テ理財法ヲ以テ定メタル最上額内ニ
於テ投票シ又州備金ノ元金ノ七分ヲ加ヘタ
ルモノナリ

第二未定ノ出産

是ハ千八百三十八年ノ法ヲ以テ通常ノ費ト

不必須ノ費トニ當タリ

第三鄙郷道路及ヒ小學ノ費ノ為メニ許シタル
加稅

非常歳入出ノ入額ハ左ノ收納ヲ以テス

第一非常加稅

是ハ年々州會ニ於テ理財法ヲ以テ定メタル
最上額内ニ於テ投票シ別段ニ法ヲ設テ許ス
モノナリ

第二讓リ典ヘタル物品ノ代價

第三贈遺物

第四拂ヒ出ス可キ元金ノ拂濟及ヒ一時ニ皆濟
シタル年賦金

第五借用金

第六其他臨時ノ入額

通常費ノ内必須ノモノハ左ノ如シ

第一州廳郡廳ノ家賃及ヒ營繕料

第二護兵屯集所ノ費

第三裁判所ノ家賃家具其他ノ費及ヒ治安裁判
所ノ雜費

是等ノ費ヲ歳入出簿ニ州會ニ於テ載セザル時

ハ州知事ハ其評議所ニ於テ之ヲ記載シ直税ヨ
リ取立ツ可キ格段ノ税ヲ以テ之ニ當ツ

此税ヲ起スニ理財法ヲ以テ定メタル最上額
ヲ越エサレハ国議院ニ於テ作りタル帝ノ制
誥ヲ以テ決定ス若シ最上額ヲ越ユレハ法ヲ
以テ決定ス

必須ノ費ニ非サル其他ノ費ハ直十ニ通常ノ入
出簿ニ書入ル可ラス且州會ニ於テ定メタル費
ハ帝ノ制誥ヲ以テモ変シ得可ラズ

千八百六十六年ノ法ヲ以テ通常或ハ非常ノ加
税ノ従前ノ加税ヲ越ユ可キモノハ總テノ直税
ヨリ取立ル事ヲ布令シ且国ニ属スル森林ハ出
税ス可キ本價ノ半高ノ平均ヲ以テ通常或ハ非
常ノ加税ヲ收ム可シト布令セリ尤此事ノ為メ
ニ鄙郷道路ニ付キ出セル法律及ヒ地方便用ノ
鉄道ニ付キ出セル法律ヲ以テ規定シタル件々
ヲ害ス可ラズ

州ノ備用金ヲ起スヲ廢シ更ニ四百萬フランク
ノ備金ヲ起セリ是ハ全国ニ科シタルモノニシ
テ此備金ヲ受用スルヲ要スル所ノ州ノ助成ノ

為メニ立テタルモノナリ此助成金ノ配分ハ國
議院ニ於テ作りタル帝ノ制詔ヲ以テス
鄙郷道路及ヒ小学ノ為メニ備ヘタル別段ノ備
金ハ受用ス可キ要件定リアリト雖モ其要用ト
スルモノ、外ニ若シ有餘アレハ之レヲ通常ノ
費ニ当ルヲ新法ヲ以テ許セリ故ニ此備金ノ
有餘アレトモ其レヲ用フルヲナクシテ一般ノ
助成金ヲ受用スルヲ欲シ得可カラズ
千八百三十八年ノ法ノ第十二條及ヒ千八百六
十六年ノ法ノ第九條ニ從ヒ現ノ仕拂期限中ニ

アリテ用ヒサル所ノ金ハ閉期ノ後ハ其儘次ノ
仕拂期限ニ送ル可シ若シ用ノ定ラサル金ナレ
ハ其出所ノ根源ニ從ヒ次ノ仕拂期限ノ配当金
ト共ニ交ヘ州會ニ於テ定メタル配当ニ用フ可
シ
千八百六十六年ノ法ヲ以テ歳入出簿ニ臨時ノ
費ノ為メニ備金ヲ記載スルヲ州會ニ許セリ
千八百六十六年ノ法ノ理財ニ関スル件々ハ千
八百六十八年ノ仕拂期限ヨリ行フ可シ此法ヲ
以テセシ州モ他州ト同様ノ規則ニ從ヘル事

ヲ布令シタリ尤非常加税及ヒ借用金ハ法ヲ以テ起スカ故ニ除ク可シ

州ノ歳入出ニ関スル件々ニ付キ千八百六十六年ノ法ヲ以テ改正シタル事左ノ如シ

第一篇ノ分チヲ廢シ通常歳入出ト非常歳入出トニ分テリ

第二州ノ備用金ヲ廢シテ全国ニ科シテ助成金ヲ起セリ

第三通常加税不必須加税及ヒ州備金ヲ合并シタリ

州備金ハ格段ノ加税ノ其用ニ充用シ猶餘レル者ト同シク通常ノ費ニ給スル為メニ理財法ヲ以テ定メタル最上額中ニ於テ投票シ得可シ

第四州會ハ理財法ヲ以テ定メタル最上額中ニ於テ非常ノ加税ヲ投票スルノ権及ヒ十二个月ノ期限内ニ皆済ス可キ金ヲ借用スルノ権アリ

第五必須ノ雜費タル費ノ減省

第六新規ニ起ス可キ加税ハ以後四ツノ直税ヨリ取立ルト及ヒ国ノ森林ハ出税ス可キ本價ノ

半高ノ平均ヲ以テ通常或ハ非常ノ加税ヲ拂フ可キ事

前ニ記スル所ノ千八百六十六年ノ法ノ旨趣トスル所ハ州會ノ権ヲ加増シ州ノ歳入出ノ取立方ヲ自在ニスルニアリ

州知事ヨリ出シタル入出簿ハ州會ニ於テ討論シ且ツ投票シ而シテ制誥ヲ以テ之ヲ許可ス諸費ノ仕拂及ヒ仕拂ヲ命スルトハ仕拂期限ノ翌年ノ五月三十一日迄ヲ期ス可シ而シテ仕拂ハ六月三十日迄為シ得可シ

五年目ニ至リ拂ノ弃捐ハ州ノ債主ニ及ボス可カラス

拂ヲ命スル人ハ州知事ナリ州知事ハ内務長官ヲ代シ拂ノ命令ヲ出ス仕拂役ハ州ノ出納吏ナリ是ハ請取金ヲ請取拂金ヲ拂フノ任ナリ

州知事ハ政令會計ヲ為シ大出納役ハ錢財會計ヲ為ス

州知事ノ政令會計ハ州會ニ出シ州會ニ於テ之ヲ討論シ之ヲ決定ス而シテ州知事ハ之レニ列席スルトナシ此會計ヲ規定スルニハ制誥ヲ以テ

ス

歳入出簿及規定シタル諸會計ハ上梓シテ公布

ス

任拂ノ勘定ニ付キ大出納役ハ統計官ト決算ス
州會ハ千八百六十六年ノ法則ノ第四個條及ヒ
第五個條ニ從ヒ里ノ公益ニ付キテ検査ノ職ヲ
勤ム其事件左ノ如シ

非常加税ノ割合ヲ定ムル事

非常加税ノ最上額ハ原税ノ二割ヲ越エスシ
テ里ノ非常ノ費用ノ為メニ里會ニ於テ投票

スルノ許シアリ

州知事ヨリ州會ニ出シタル里ノ都テノ借用金
ノ明細書及ヒ前ノ會合以來投票シタル都テノ
非常税ノ明細書ヲ検査スル事

州知事ヨリ州會ニ出シタル大中鄙郷路ノ充費
金ノ用ヒ方ニ拘ハリタル年々ノ會計ヲ検査ス
ル事

国廳ノ評議所或ハ地方廳ノ評議所ノ体裁
州會ハ国政治及ヒ地方政治ヲ光明ニスル為メ
ニ意見ヲ述ヘ或ハ建言シ得可シ

意見

州會ノ意見ヲ問フ事ハ必ス要ス可キ事アリ必
スシモ要セザル事アリ

必ラス問フヲ要スルノ件々左ノ如シ

州郡邑里ノ境界ヲ変スルノ企

都會ノ指揮

諸里ニ関係スル工業ノ費用ノ配賦ニ付キ起
ル争訟

大市及小市ヲ興廢及ヒ变革スル事

閭税ノ摠税則ヲ作ル事

州會ノ意見ヲ政令官署ニ於テ問ント欲スル件
ハ百事皆問ト雖モ可ナリ

必ス問フヲ要スルノ事ト雖モ政令官署ヲシテ

必ス問フヲ要セシメス然レモ若シ政令官署ニ

於テ必ス問フ可キノ意見ヲ問ハズシテ決定シ

タル中ハ権ヲ越エタルノ理ヲ以テ国議院ニ上

告スルヲアリ

建言

州會ハ州ニ関スル諸事務ニ付キ建言シ得可シ
意見ヲ述ルト建言トハ多少ノ相違アリ

第一意見ハ政令官署ノ問ニ應スルモノナリ建
言ハ自ラ發言スルモノナリ

第二意見ハ州知事ニ呈シ知事ノ意ニ國廳ニ出
スヲ掣要トスル時ハ知事ヨリ之ヲ國廳ニ呈ス
建言ハ州會ノ議長ヨリ直チニ内務長官ニ呈ス
ルナリ

州會ノ職掌ヲ茲ニ畧説ス

制法権ノ代人ノ体裁ヲ以テ州會ハ配賦直稅ヲ
諸郡ニ分配シ州及郡ヨリ出シタル減省ノ請求
ヲ定ム

州代人ノ体裁ヲ以テハ州ノ公益ニ付キ或時ハ
獨斷ヲ以テ評決シ或時ハ知事長官国主制法官
ノ如キ上司ノ許可ヲ得テ評決ス

州治及ヒ里治ノ検査職ノ体裁ヲ以テハ記録ヲ
確定シ州ニ属スル動産ノ簿書ヲ確定ス州知事
ヨリ出シタル入出簿ヲ討論シ且ツ投票ス州知
事ノ列坐ヲ省キ帝ノ許可ヲ以テ州知事ノ政令
會計ヲ評決シ州知事ヲシテ大中鄙郷路ノ充費
金ノ用ヒ方ノ如キ里ノ財ノ用ヒ方ニ付キ辨解
セシム

大藏省
国廳或ハ地方廳ノ評議所ノ体裁ヲ以テハ国政
治或ハ州政治ヲ光明ニセンカ為メニ意見ヲ述
ヘ必要ナル事務ニ注意セシメ又建言シテ州ノ
諸務ニ注意セシム

大雅
卷